

特集

働くものが団結するわけ

- ♣ 扉 オルタナティブな生き方 仁茂田芳枝 1
♥ まなぶということ 佐藤礼次 2
♠ 詩 イメージ 竹内景助 4



なぜ私たちは団結するのか

中野麻美 6

働きつづけられないから働きつづけられる職場に

毛利珠代 10

働くものの思いを共有できるからがんばれる

道後 旭 12

医療再編から組合員と雇用を守る

高橋 博 14

なぜ労働組合にこだわるのか

藤ヶ谷祐樹 16

仲間の声をつかむのが基本

武田幸喜 17

みんな！ 労働組合でがんばろう

梅川正信 20

日本のうしろ 世界のうしろ

日韓は協力するパートナーとなったのか

韓 興鉄

23春闘「ステージ」は変わったか

荒川創太 22

国家と教育 ① 連載にあたつて

中川 律 30

憲法 ①6 婚姻制度の現在

北川鑑一 34

まなぶ論壇 公共サービスと働き方改革

資本主義的生産のあり様が生みだした矛盾

横山朋美

夢や期待ばかりあおられ、うんざり

上谷卓志 50

私はこう考える

労働条件の向上なくしていいサービスはない

山口明日波

職場の法律相談 退職後の競業禁止義務は有効？

濱本凌汰 54

経済講座 ⑥ 国家とのつながり

熊谷重勝 57

誌上学習会『イギリスにおける労働者階級の状態』⑥

大都市

61

- ◆ キャラバンサライ 38
◆ スポーツ時評 40
◆ 世界はいま 42
◆ 経済を知ろう！ 44

- ◆ 数字を疑え 46
◆ 中国観看 48
◆ 情報BOX 65
◆ 北から南から 66

66 65 48 46

- ◆ センターとみなさんをつなぐ 68
◆ カットII野崎安希子

まなぶということ

スマホを置いて主権者になる

佐藤 礼次

私たちは社会の一員として生きています。別のいい方では国民の一人として暮らしているといってもいいでしょう。個人として私と国との関係は、税を納めたりする義務に対して選挙権を行使する権利をもっています。

私たちが社会人であるというのは、自分と国の間にさまざまな形と段階の社会があり、それらの社会集団に私たちが属しているということ。網の目のようにからみあって社会をつくっているのです。そのかわりあいの濃淡もまたさまざまです。

一日の生活を振り返ってみて下さい。ふつうは8時間寝て、8時間働いて、あとの8時間を生活にあてています。この最後の8時間、とはいっても食べたり、通勤のために2〜3時間も費やすと、もう自由になるのは4時間そこそこです。この4時間足らずの自由時間で私たちはどれだけ社会的生活を豊かにするかが決まっています。

同じ一票を投じるにしても、ポスターの感じがよかったから入れたとか、自分の票で大勢が変わるわけではないから面倒だから棄権してしまう人もいます。そうではなく、候補者とその政党のいつていること、やっていること、やってきたことを調べたり、詳しくその人に聞いたり、なんなら会いに行ったり手紙で問い合わせたり―選挙という場面で、候補者と投票人の関係を限りなく接近させることもできるのです。

いまから50〜60年前、日本人の政治意識が高まるのを抑えるために「3S政策」がアメリカに倣って輸入されたことがあります。スクリーン、セックス、スポーツの3Sです。現在だと皆が手離れなくなっているスマホです。

政党とは、主権者である国民の一人ひとりが参加して政治活動をするためにつくられるはずですが、現実には政治家（屋）が自分が議員になるための組織にすりえられてしまっています。投票は、頼まれてするものではなく、自主的、自発的にするのがある権者のほんとうの姿なのではないかと思うのですが、どうでしょうか。

(労働者運動資料室 理事)